



2024年11月8日

各 位

会 社 名 株式会社ヨコオ
代表者名 代表取締役兼執行役員社長 徳間 孝之
(コード番号 6800 東証プライム市場)
問合せ先 執行役員SCI本部長 多賀谷 敏久
(TEL. 03-3916-3111)

営業外費用（為替差損）の計上及び2025年3月期第2四半期（中間期）の業績予想値と実績値との差異並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

2025年3月期第2四半期（中間期）における営業外費用（為替差損）の計上及び第2四半期（中間期）の業績予想値と実績値との差異並びに通期の連結業績予想の修正につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外費用（為替差損）の計上

2025年3月期第2四半期（中間期）において、急激な為替相場の変動により、為替差損1,034百万円を営業外費用に計上いたしました。

なお、上記の金額は、当社グループが保有する外貨建て債権・債務の決済及び期末為替レートによる評価替えで発生したものであり、今後の為替相場の状況により変動いたします。

2. 第2四半期（中間期）の業績予想値と実績値との差異（2024年4月1日～9月30日）

	前回予想 (A) (2024年8月8日 公表)	今回実績 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(ご参考) 前年同中間期実績 (2023年4月1日～9月30日)
売 上 高 (百万円)	40,000	40,809	+809	+2.0	36,794
VCCS	27,700	27,714	+14	+0.1	26,491
CTC	7,200	7,467	+267	+3.7	6,188
FC・MD	4,950	5,461	+511	+10.3	3,903
インキュベーションセ ンター	150	163	+13	+8.9	207
その他・調整額	—	2	—	—	4
営 業 利 益 (百万円)	1,800	2,105	+305	+17.0	△120
VCCS	1,300	1,389	+89	+6.9	717
CTC	650	789	+139	+21.5	△461
FC・MD	300	347	+47	+15.8	△46
インキュベーションセ ンター	△450	△430	+19	—	△337
その他・調整額	—	8	—	—	7
経 常 利 益 (百万円)	1,150	1,064	△85	△7.5	1,701
親会社株主に帰属する 中間純利益 (百万円)	750	575	△174	△23.3	958
1株当たり中間純利益 (円 銭)	32.17	24.68	—	—	41.13

3. 通期の連結業績予想の修正（2024年4月1日～2025年3月31日）

	前回予想（A） （2024年8月8日 公表）	今回修正予想 （B）	増減額 （B－A）	増減率 （%）	（ご参考） 前期実績 （2024年3月期）
売上高（百万円）	80,000	82,000	+2,000	+2.5	76,895
VCCS	55,100	55,600	+500	+0.9	55,583
CTC	14,800	15,300	+500	+3.4	12,585
FC・MD	9,800	10,800	+1,000	+10.2	8,373
インキュベーションセ ンター	300	300	—	—	345
その他・調整額	—	—	—	—	7
営業利益（百万円）	4,100	4,450	+350	+8.5	1,617
VCCS	3,050	2,800	△250	△8.2	3,100
CTC	1,200	1,650	+450	+37.5	△794
FC・MD	650	750	+100	+15.4	117
インキュベーションセ ンター	△800	△750	+50	—	△811
その他・調整額	—	—	—	—	6
経常利益（百万円）	3,000	3,650	+650	+21.7	3,710
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	2,000	2,350	+350	+17.5	1,511
1株当たり当期純利益 （円 銭）	85.80	100.81	—	—	64.86

4. 理由

(1) 第2四半期（中間期）

売上高につきましては、CTC/FC・MDセグメントにおいて、円安進行（上期想定為替レート：1米ドル＝145円、期中平均為替レート：1米ドル＝152.71円）に伴う海外売上高の増加などにより、すべてのセグメントが増収となった結果、予想値を上回りました。

営業利益につきましては、VCCSセグメントにおける低価法による在庫評価減の圧縮やCTC/FC・MDセグメントにおける固定費の徹底抑制と円安効果などにより、すべてのセグメントにおいて損益が予想値を上回りました。

経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、円高（上期想定為替レート：1米ドル＝145円、期末為替レート：1米ドル＝142.73円）による為替差損1,034百万円の計上（前回予想時は為替差損650百万円の見込み）などにより、予想値を下回りました。

(2) 通期

売上高につきましては、当第2四半期（中間期）の実績及び第3四半期以降の受注見込みを踏まえ、後掲「5. 予想の前提となる条件等」の下、上記3. のとおり修正いたします。

営業利益につきましては、想定為替レートを円安方向に見直したことにより、VCCSセグメントにおいては減益を見込む一方、CTC/FC・MDセグメントにおいては増益が見込まれることから、上記3. のとおり修正いたします。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、想定為替レート1米ドル＝145円（前回予想時は1米ドル＝140円）のもと、為替差損800百万円などを見込み、上記3. のとおり修正いたします。

5. 予想の前提となる条件等

2025年3月期の通期見通しにつきましては、予想の前提となる条件を次のとおり想定しております。

- 当社の主要市場である自動車市場につきましては、一部顧客の生産調整を見込み、今年度中は継続するものと想定しております。
- 半導体検査市場につきましては、2023年3月期下期以降の半導体市場の落ち込みに底打ち感が出てきたことに加えて、生成AI関連の半導体検査需要が引き続き拡大するものと想定しております。
- 携帯通信端末市場につきましては、POS端末など電子機器端末向けの需要が、過剰在庫の解消に伴い緩やかに回復するものと想定しております。
- 先端医療機器市場につきましては、カテーテル等を用いた低侵襲医療への需要が順調に伸長するものと想定しております。
- MaaS/IoT市場につきましては、モビリティの進展やIoTの普及に伴い、順調に成長するものと想定しております。

(注) 本資料に記載の予想数値は、公表日現在入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上